

[鳥取県] 伯耆町立岸本中学校区

伯耆町立岸本小学校
伯耆町立八郷小学校
伯耆町立岸本中学校

1. 学校・市町村概要

- 教育目標：学びの自覚を深めて学力の定着を図り、人を大切にできる力を身につけるようにする
- 所在地：(岸本小) 鳥取県西伯郡伯耆町吉長78-2
(八郷小) 鳥取県西伯郡伯耆町真野971
(岸本中) 鳥取県西伯郡伯耆町吉長90-1



岸本小学校

八郷小学校

岸本中学校

- 児童生徒数 (H29. 5. 1時点)

学年	小学校(岸本小と八郷小の合計)								中学校					小・中計
	1	2	3	4	5	6	特別支援学級	計	1	2	3	特別支援学級	計	
児童生徒数	65	61	60	64	66	56	12	384	53	68	61	11	193	577
学級数	3	3	3	3	3	3	5	23	2	3	3	3	11	34

- 伯耆町概要：〔人口〕 11, 185人 〔学校数〕 小学校4校, 中学校2校

2. 導入経緯

- 平成23年度 「未来を拓くスクラム教育」推進事業(3か年)開始(鳥取県教育委員会)
- 平成25年度 「伯耆町小中一貫教育推進計画」による全町的な方針を策定
- 平成26年度 県事業終了後も独自に取組を推進

3. 小中一貫教育の取組概要

ねらい

- 中学校区のめざす人間像
 - ①「自ら考え, 自ら学ぶひと」
 - ②「自他を理解し, すすんで人とかかわるひと」
 - ③「目標を持って努力し続けるひと」

形態・施設

- 施設分離型

教職員体制

- 校長: 各校に配置
- 教職員: 一部教職員に兼務発令
- 小中一貫教育コーディネーター: 指名あり

教育課程特例・区切り・区切りを意識させる行事

- 教育課程の特例: 実施なし
- 区切り: 6-3
- 行事: 実施なし

教科担任制・教員の相互乗り入れ

- 教科担任制: 一部教科担任制(第5学年から理科, 音楽科, 家庭科)
- 乗り入れ: 中学校教員が小学校の外国語活動に乗り入れ

児童生徒の異学年交流

- 1月の土曜授業の折に, 小学校第6学年が中学校の新入学説明会に参加し, 中学生と交流する体験学習を実施

市町村教育委員会等による支援

- 「小中一貫学力・人間力定着促進事業」を設け, 中学校区の小中合同研究会や校内研究会についての講師謝金等を予算計上している。
- 平成28年度までの3か年計画で「保小中一貫カリキュラム」の作成を主導し, 平成29年度より運用を開始した。

【めざす人間像と学年目標のかかわり】

校種	保育所	小学校						中学校		
		年少・中・長	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年
区分	前々期	前期				中期		後期		
学びの姿勢	【基盤形成期】 基本的な生活習慣の基礎を身に付ける。	【基本期】 基礎基本を繰り返して習熟を図り, 基本的な生活習慣を身に付ける。				【定着期】 基礎基本を確実に身に付け, 思考力・判断力・表現力等を伸ばし, 規範意識を高める。		【発展期】 基礎基本を応用し, 個性を伸ばし社会性を育む。		
	学ぶ喜びを体感する 人とかわる喜びを体感する 生活の仕方や決まりを体感する					学び方を学ぶ 人とかかわり方を学ぶ よりよい生活の仕方学ぶ		自ら学ぶ 自ら人とよりよくかわる 自らよりよい生活を創造する		

小中一貫教育を行う学校においては、授業での指導方法を緩やかに設定し、継続させていく取組が増えてきています。例えば、基本的な授業の流れに関して、学習指導要領において、「児童生徒が学習の見通しを立てたり学習したことを振り返ったりする活動を計画的に取り入れるよう工夫すること」とされていることを踏まえつつ、児童生徒の実態や発達の段階を踏まえて緩やかに決めておくことも考えられます。

伯耆町立岸本中学校区では、小・中学校で授業スタイルを統一し、特に、「学びの自覚を深めることにつながる『自己評価』の在り方」について、小・中学校で重点的に研究しています。

● 岸本中学校区で取り組む授業スタイル

児童生徒に「教える」段階と「考えさせる」段階に分けた4段階の学習過程を通して、習得すべき内容の定着を図っています。

岸本中学校区の自己評価とは

「授業で分かったこと」や「よく分からないこと」、「疑問点」など、提示した目標に対して文章で記述させることで学習状況を自覚させる。

※『教えて考えさせる授業』のための10のポイント～日々の授業を通して～「スクラム教育研究のまとめ」(平成29年3月)より

予習段階で「授業でどんなことをするのか」という概略をつかませ、ある程度の予備知識を持たせる。

- (1) 教師からの説明（「教える」の部分）
教師から学習内容や教科書に載っている原理・原則を伝える。
- (2) 理解確認（「考えさせる」の第1ステップ）
子供同士の相互説明や教え合い活動などを通じて理解の確認を図る。
- (3) 理解深化（「考えさせる」の第2ステップ）
考えがいのある課題の問題解決や討論を行う。
- (4) **自己評価活動**（「考えさせる」の第3ステップ）
授業の最後に、自己評価（分かったこと・分からなかったこと）を記述する。

岸本中学校区の教師は、児童生徒の学びの自覚を深めるために、発達の段階を踏まえ、自己評価の取組を工夫しています。

小学校の自己評価

▶ 本時の目標に関わらせ、学びを自覚させる
例：第2学年算数科（岸本小学校）

本時の目標 三角形と四角形の弁別と点構成や線構成をし、三角形や四角形になるわけを説明する。

↓ 関連付ける

自己評価 「三角形や四角形」「点」「線」というキーワード（本時の目標となるキーワード）を使って、本時で「分かったこと」「分からなかったこと」を自分の言葉でまとめる。

中学校の自己評価

▶ 自己評価を共有し、学びを自覚させる
例：第2学年社会科（岸本中学校）

自己評価 「明治政府がどのような国をつくりたかったのか」について、近代国家につながる4つの政策を基に課題を解決した学びの過程を振り返り、「学習の成果」「疑問点」「質問」を書く。

↓ 理解を深める

共有 明治政府の政策について記述した「学習の成果」「疑問点」「質問」を、ペアや班で読み合ったり一言伝え合ったりする。

▶ 自己評価を通して学習の見通しを持たせる
例：第4学年算数科（八郷小学校）

学習を振り返り、各自が分かったことや、分からなかったことなどを「単元シラバス」に記入する。

単元シラバス形式		八郷小学校【4年 算数】	
単元名	11けたでわるわり算の筆算	11時間	番号
教科書のページ	20～33ページ		名前
単元のわらい	わり算のひっ算の仕方がわかる。わり算の筆算ができる。		
時	日	学習すること(教科書のページ)	予習・準備することなど
1	／	答えが何十・何百になるわり算(P20, 21)	教科書P20, 21を認める。答えが何十・何百になるわり算ができる。
2	／	(2けた)÷(1けた)の考え方～色紙を使って～(P22)	教科書P22の問答を読んで式を組んでいく。色紙を使って(2けた)÷(1けた)の計算ができる。【予習カード】
3	／	(2けた)÷(1けた)の筆算(P23)	教科書P23を認める。(2けた)÷(1けた)の筆算ができる。

わかったこと・できたこと
わからなかったこと・できなかったこと

<算数科単元シラバス>

▶ 自己評価を通して授業と家庭学習をつなぐ
例：第3学年外国語科（岸本中学校）

自己評価に「要復習・確認」、「家庭学習内容」の項目を設定し、家庭学習の仕方や「家庭学習→授業→家庭学習」のサイクルを確立する。

Program7		What Is the Most Important Thing to You?	
Contents	Page	Goal and SEI-A-B	
		A: Perfect B: Good C: So-so D: Not good E: Oh, no	①分かったこと ②分からなかったこと 要復習・確認
who + 動詞 「人」について説明する	p.74 p.75	whoを使って「人」について英語で説明することができる。	① ②
Program7【家庭学習内容】			②

<外国語科単元シラバス>

※「単元シラバス」による自己評価は、岸本中学校区において活用されています。これを作成・活用することで、児童生徒が単元全体を見通して学習を進めたり、メタ認知につながる本時の振り返り文が書けるようになったりします。

5. これまでの成果と課題、今後の取組

児童生徒の授業評価について、「学校の勉強はよく分かる」、「先生は分かりやすく丁寧に教えてくれる」の項目については、肯定的回答が小学校・中学校ともに90%以上を達成しています。特に、「授業の中で、自分の『分かったこと』『まだ分からないこと』『できたこと』『まだできないこと』が分かる」については、中学校で96%以上となりました。

自己評価の取組は、児童生徒に自分の学習状況を自覚させ、次の学びに向けた準備を促すとともに、教師自身の授業改善にとっても大きな役割を果たすため、今後も取組を充実させていきたいと考えています。